

環境省における熱中症対策について

1. 気象情報の提供 <参考 1>

担当部局 水・大気環境局大気生活環境室

◆暑さ指数（WBGT）の情報提供

- ・全国の約 150 地点のWBGTの予報値を算出し、環境省ホームページ上において当日、翌日、翌々日の 3 日間分について、3 時間毎の予報値を毎日公開。
- ・環境省が、6 気象台（東京、新潟、名古屋、大阪、広島、福岡）及びアメダス観測所（練馬）に観測機器を設置して測定した 1 時間毎のWBGT実測値並びに、全国の約 150 地点にて算出した 1 時間毎のWBGTの実況予測値（現在のWBGTの推計値）を公開。
- ・希望のあった自治体や企業等には、一定間隔で、予報値、実況予測値及び実測値データを電子メール等にて提供。

2. 予防・対処法の普及啓発 <参考 2、3>

担当部局 環境保健部環境安全課
水・大気環境局大気生活環境室

◆熱中症についての科学的知見や予防法等をまとめた「熱中症環境保健マニュアル」や高齢者向けリーフレット、ポストカード等の作成・配布、原稿データ提供等

- ・熱中症についての科学的知見や予防法等をまとめた「熱中症環境保健マニュアル」、日常生活における予防・対処法などの要点をまとめたリーフレット及び携帯型カードを作成配布。これらについては、地方自治体や教育委員会の他、一般の方へも広く配布。
- ・高齢者向けに内容を特化したリーフレット、ポストカードを作成し、地方自治体や高齢者関係団体に配布。希望があった自治体には、リーフレット等の原稿のデータを提供し、自治体による増刷・配布を実施。

◆熱中症対策講習会の実施（5月28日～6月12日）

- ・各地域において地域の特性に応じた熱中症対策を進める際、指導者として中心的に対応できる人材の育成に資するため、主に地方自治体の担当職員、民生委員及びイベント主催者等を対象に、熱中症に関する基礎知識や、地域レベルでの効果的な対策等に係る講習会を、5月下旬から6月上旬にかけて全国 10 カ所で実施。

◆民間企業と連携した「熱中症予防声かけプロジェクト」の推進

- ・熱中症に係る正しい知識を普及するとともに、民間企業や行政機関が連携し、熱中症予防の声かけの輪を広げる取組として、「熱中症予防声かけプロジェクト」が「熱中症予防声かけプロジェクト実行委員会」の主催により平成 23 年より開始さ

れており、実行委員会に環境省も参画・支援を実施。また、都道府縣市等に対し、同プロジェクトを活用した熱中症予防の普及啓発について依頼。

3. 「クールサマー2012」の推進 <参考4> 担当部局 大臣官房政策評価広報課

この夏を無理なく、無駄なく、心地よく過ごせるよう、熱中症対策やクールビズ、省エネ・節電に関する呼びかけを一体的に行うための環境省のプロジェクトの総称。各省や民間等との連携の元、これらの取組を一元化して提供することとしており、熱中症対策もこの一環として実施。

(2) 暑さ指数の表示

以下2つの熱中症指針を指標とし、測定値等を各指標に応じて色分けして表示する。

① 日本体育協会「熱中症予防のための運動指針」(1994年)より

WBGT	熱中症予防のための運動指針	
31℃以上	運動は原則中止	WBGT 31℃以上では、皮膚温度より気温のほうが高くなり、体から熱を逃がすことができない。特別の場合以外は運動を中止する。
28～31℃	厳重警戒	熱中症の危険が高いため、激しい運動や持久走などは避ける。体力低いもの、暑さに馴れていないものは運動中止。運動する場合に積極的に休憩をとり水分補給を行う。
25～28℃	警戒	熱中症の危険が増すため、積極的に休憩をとり、水分を補給する。激しい運動では30分おきくらいに休憩をとる。
21～25℃	注意	熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意しながら、運動の合間に積極的に水分を補給する。
21℃まで	ほぼ安全	通常は熱中症の危険性は少ないが、水分の補給は必要。市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので注意する。

② 日本生気象学会「日常生活における熱中症予防指針」Ver.2 (2012年)より

温度基準 (WBGT)	注意すべき生活活動の目安	注意事項
危険 (31℃以上)	すべての生活活動でおこる危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が大きい。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。
厳重警戒 (28～31℃)		外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。
警戒 (25～28℃)	中等度以上の生活活動でおこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に十分に休憩を取り入れる。
注意 (25℃未満)	強い生活活動でおこる危険性	一般に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。

4. 地方自治体等への情報提供 (提供期間: 準備完了次第～9月30日)

希望自治体や企業等に一定間隔で、予報値、実況予測値及び実測値データを電子メール等にて提供する。提供するデータは提供先の希望に基づき、全部又は特定の地域のみ送れるようにする。

(提供方式)

① 電子メール方式

予め指定されたメールアドレスあてに予報値等のデータファイルを添付した電子メールを送信する。

原則、基準となる暑さ指数の値を予め定め、毎朝6時の予報値算出時に基準値以上の値が出現したとき又は毎日6時から20時までの間、1時間ごとの予測・実測される実況予測値及び実測値に基準値以上の値が出現したときに、当該データを電子メールにて送信する。

② HTTP方式

本業務の請負先である独立行政法人国立環境研究所（以下「国環研」という。）のHTTPサーバーに、地方自治体等がアクセスし、予報値等のデータをダウンロードする。

③ FTP方式

地方自治体等のFTPサーバーに、国環研が接続し、予報値等のデータを送信する。

②及び③については、指定された地域における6時、12時及び18時に算出された暑さ指数の予報値データ、1時間おきに予測・実測される実況予測値及び実測値データを算出等の都度、提供する。

暑さ指数を知りたい地点を選択して下さい。

地方

都道府県

地点

このサイトは、熱中症などに対する注意を促すことを目的に暑さ指数(WBGT:湿球黒球温度)、熱中症患者速報、熱中症への対処方法に関する知見など熱中症関連情報を提供するサイトです。

携帯サイトはこちらからご利用できます。



ご利用にあたって!

このサイトの利用上の注意について説明をしています。

暑さ指数(WBGT)とは

暑さ指数(WBGT:湿球黒球温度)について説明をしています。

環境省熱中症情報

熱中症への環境省の取り組みを紹介しています。

熱中症環境保健マニュアル

熱中症についての正しい知識を提供し、予防に供するとともに、熱中症になったときの適切な対処法等を紹介しています。

環境省 ヒートアイランド対策

ヒートアイランド現象やヒートアイランド対策大綱を紹介しています。

国立環境研究所 熱中症患者速報

こちらから先は、(社)国立環境研究所のサイトになります。



環境省は熱中症予防プロジェクトに賛助しています。熱中症予防声かけプロジェクト実行委員会のサイトになります。(外部サイト)

ご意見・ご質問

環境省
※本サイトに関するご意見・ご質問は、環境省水・大気環境局大気生活環境室 heat@env.go.jpまでお寄せ下さい。
※掲載されているデータ・資料等の著作権は、出典のあるものを除き環境省が保有しています。

東京(大手町)
 名称 東京管区気象台
 所在地 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-4

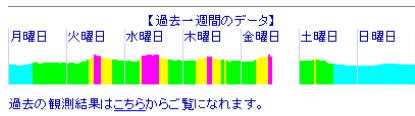
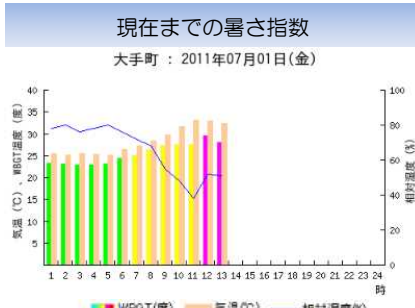
現在の暑さ指数

大手町 7月1日13時	28.2℃
参考 乾球温度 32.4℃	相対湿度 51.0%
黒球温度 42.0℃	湿球温度 23.7℃

今後の暑さ指数予報

東京		今後の予報							
		3時	6時	9時	12時	15時	18時	21時	24時
7月1日12時時点 29.8℃	7月1日					28	25	25	24
	7月2日	22	22	25	26	26	25	24	24
	7月3日	22	24	27	28	28	27	26	26

- 一番左の欄には現在の暑さ指数(WBGT)を表示しています。
- 現在の暑さ指数は刻々の状況を反映しているため、予報と乖離がある可能性があります。
- 予報は6時間ごとに更新しているため、現在の暑さ指数の値から乖離している場合があります。



暑さ指数に係る運動と生活の指針
日本体育協会(2006) 熱中症予防のための運動指針より

高温(参考)	WBGT 指標	熱中症予防のための運動指針
35℃以上	35℃以上	WBGT31℃以上では、皮膚温より気温の方が高くなり、体から熱を逃すことが難しい。特別の場合以外は運動を中止する。
31~30℃	28~31℃	WBGT28℃以上では、熱中症の危険が高いので、激しい運動や持久走など体温を上げやすい運動は避ける。運動する場合には、積極的に休息をとる水分補給を行う。体力の低いもの、暑おびたれているものは運動を中止。
28~31℃	25~28℃	WBGT25℃以上では、熱中症の危険が増すので、積極的に休息をとる水分補給をする。激しい運動では、30分おきくらいに休息をとる。
24~28℃	21~25℃	WBGT21℃以上では、熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水を飲むようにする。
24℃まで	21℃以下	WBGT21℃以下では、運動による熱中症の危険は小さいが、湿度や水分補給が必要である。涼風マラソンなどでこの条件でも熱中症が発生するの注意。

日本気象学会(2008) 日常生活における熱中症予防指針Ver.1より

温度基準(参考)	注意すべき生活活動の目安	注意事項
35℃以上	すべての生活活動でおこる危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が大きい。外出はなるべく避ける。涼しい室内に移動する。
31~30℃	中等度以上の生活活動でおこる危険性	外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。
28~27℃	注意(25~28℃未満)	運動や暑い作業をする際は定期的に十分に急速を取り入れる。
24℃未満	強い生活活動でおこる危険性	一般に危険性は小さいが、激しい運動や重労働には発生する危険性がある。

他地点の暑さ指数

水戸	館野	宇都宮	日光	前橋
熊谷	秩父	東京	大島	三宅島
八丈島	父島	銚子	館山	勝浦
千葉	横浜	練馬	八王子	

熱中症に関する普及啓発について

環境省環境保健部環境安全課

1. マニュアル等の作成・配布

(1) 熱中症環境保健マニュアル、リーフレット及びカード等の作成

① 熱中症環境保健マニュアル：

平成 17 年度より、熱中症についての新しい科学的知見や関連情報を紹介することを目的とし、熱中症に関する保健指導マニュアルを作成。2011 年度、最新の情報及び知見を踏まえ更新。



② リーフレット及び携帯型カード：

平成 21 年度より、一般の方々の利便性等を考慮して、熱中症の予防方法や対処方法などの要点について、より分かり易くまとめたリーフレット「熱中症～ご存じですか？予防・対処法～」及び携帯型カード「熱中症予防カード」を作成。



③ 高齢者向けリーフレット及びポストカード

平成 23 年度、前年の猛暑における事例を踏まえ、高齢者向けに内容を特化したリーフレット「熱中症～思い当たることはありませんか？～」及び同内容を抜粋したポストカードを新たに作成。

今年度は、ポストカードのみデザインを変更。



(2) 熱中症環境保健マニュアル、リーフレット及びカード等の配布

平成 23 年度

6 月 地方自治体、教育機関や教育委員会、老人福祉施設協議会等の関係団体等に配付の他、個別の問い合わせに応じ配布。

7 月 増刷の上、追加配布。

平成 24 年度

5 月 講習会（2. 参照）参加者に配布。

6 月 地方自治体、教育機関や教育委員会等の関係団体等に配付予定の他、個別の問い合わせに適宜対応予定。

(参考) 予定作成部数

マニュアル 16,000 部

リーフレット 300,000 枚、携帯型カード 250,000 枚
高齢者向けリーフレット 700,000 枚、ポストカード 140,000 枚

(3) その他

① ホームページでの情報提供

環境省のホームページ上で各資料の PDF 版を公開しているほか、一部内容については、携帯電話からも内容の閲覧ができるよう携帯電話用サイトを開設し、普及を図っている。

・環境省熱中症情報 http://www.env.go.jp/chemi/heat_stroke/index.html

② 印刷用データの提供

リーフレット等については、希望があった自治体に対し、自治体側で印刷・配布を行えるよう、印刷用データの貸し出しを今年度も実施している。

2. 熱中症対策講習会の実施（新規）

地域の特性に応じた、より効果的な熱中症対策の実施を推進するため、各地域において指導者として中心的に対応できる人材の育成に資することを目的として、熱中症に関する基礎知識や対策等に係る講習会を開催。定員に達していない会場については、一般の方々からも追加で参加受付。

参加者：地方自治体職員、民生委員、各種福祉施設職員、一般者他

開催場所：全国 10 カ所（延べ 14 回）

※宮城、福島、東京、埼玉、愛知、石川、大阪、香川、広島、福岡

開催日程：別表参照（5 月 28 日（月）～6 月 12 日（火））

プログラム：

13:00-13:10	開会（環境省挨拶）
13:10-14:00	熱中症の発生機序、応急処置と治療
14:00-14:50	日常生活における熱中症予防（暑熱馴化、高温時の注意点）
14:50-15:05	（休憩）
15:05-15:55	子どもと高齢者の熱中症予防策
15:55-16:45	保健指導と地域における対応例
16:45-16:55	全体質疑

16:55-17:00 閉会

※救急医学、公衆衛生学等の専門家が1会場3～4名で説明（質疑応答あり）

※※福岡会場のみ、同日の午前・午後に2回開催

< 環境省熱中症対策に係る自治体等担当者向け講習会 開催日程 >

日程	開催地
平成24年5月28日（月）	東京都千代田区
平成24年5月29日（火）	埼玉県さいたま市
平成24年5月30日（水）	大阪府大阪市
平成24年5月31日（木）	愛知県名古屋市
平成24年6月1日（金）	福岡県福岡市
平成24年6月4日（月）	宮城県仙台市
	石川県金沢市
平成24年6月5日（火）	香川県高松市
平成24年6月6日（水）	福島県福島市
平成24年6月7日（木）	広島県広島市
平成24年6月8日（金）	愛知県名古屋市
平成24年6月11日（月）	東京都千代田区
平成24年6月12日（火）	大阪府大阪市

熱中症予防声かけプロジェクトについて

環境省水・大気環境局大気生活環境室

1. 経緯

- 一昨年の猛暑による高齢者の熱中症被害状況を踏まえ、環境省において、企業等と連携した熱中症予防の普及啓発の実施に向け、関係団体等へのヒアリングを実施。
- このヒアリングを契機の一つとして、一般社団法人日本エンパワーメントコンソーシアムが中心となり、企業、メディア、行政等が連携して熱中症予防の普及啓発を進める「熱中症予防声かけプロジェクト」が立ち上げられ、環境省も参画。
- 平成23年6月8日（水）には、東京都内にてプロジェクトのキックオフミーティングが開催され、樋高環境大臣政務官より賛同コメントを発表。なお、本ミーティングには、民間企業66社、メディア49社が参加。
- 現在、賛同会員数は、2011年度実績として、企業会員数1,318、行政会員数30、民間団体会員数28となっている。

2. プロジェクトの内容

- プロジェクトは、熱中症についての正しい知識の普及を図るとともに、熱中症予防のための注意事項（「熱中症予防5つの声かけ」）を、共通ロゴマーク等を用いて参画企業、参画自治体等が各々の活動を通じ国民へ声かけを実施。

熱中症予防5つの声かけ

温度に気を配ろう 飲み物を持ち歩こう 休息をとろう
栄養をとろう 声をかけ合おう

- 家族、同僚、友人への更なる声かけを促進し、最終的に、高齢者など暑さ環境の弱者に対し効果があるよう配慮。



ロゴマーク

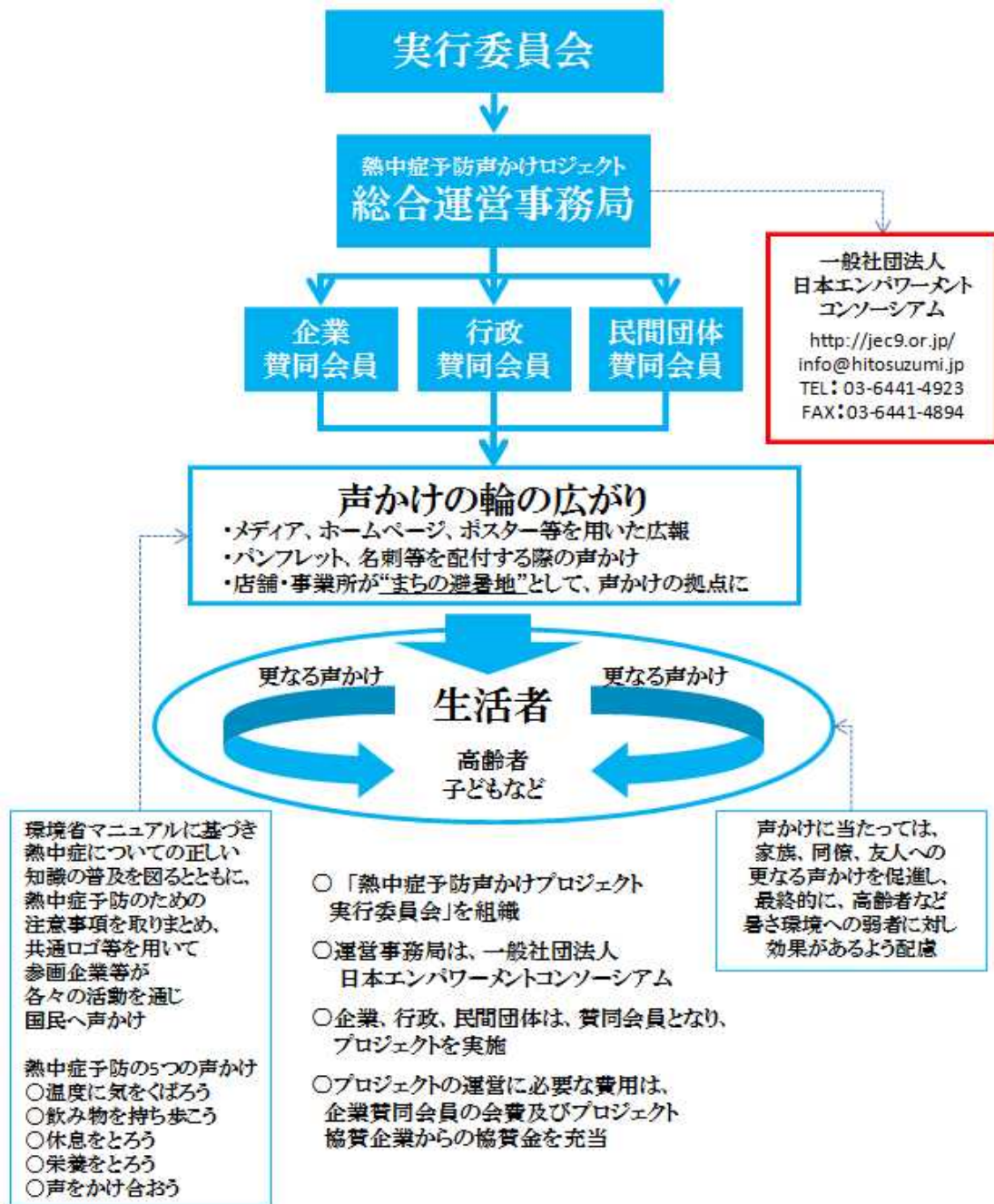


キャンペーン
キャラクター

3. プロジェクトの活用例

- 地方自治体による、本プロジェクトのロゴマーク等を活用した、ポスターやパンフレット等の普及啓発資材の作成・配付。自社のホームページにおけるプロジェクトのバナー等の掲出。
- 地方自治体の広報誌による、「5つの声かけ」の普及。
- 本プロジェクトのロゴマークを目印とした、地方自治体の庁舎やアンテナショップ等の関係施設におけるクールシェルターの提供など。

4. プロジェクトの実施体制



5. 参加方法

- プロジェクトのホームページ (<http://hitosuzumi.jp/>) にアクセスし、参加申込等を行ってください。
- 詳細は同ホームページに掲載された総合運営事務局にお問い合わせください。
- なお、行政賛同会員・民間団体については、会費無料です。

(参考) 「熱中症予防声かけプロジェクト」 実行委員会 実行委員名簿

実行委員長	井手迫 義和 国際気象放送協会 (IABM) アジア代表理事、気象予報士
副委員長	河野 一郎 筑波大学 特任教授、日本アンチ・ドーピング機構会長、 日本オリンピック委員会理事、 元・東京オリンピック・パラリンピック招致委員会事務総長
実行委員	相原 正道 福山大学 経済学部准教授 一般社団法人日本トップリーグ連携機構 トップレベルス ポーツクラブ マネジメント強化プロジェクトメンバー
実行委員	日下 博幸 筑波大学 計算科学研究センター 准教授
実行委員	大聖 泰弘 早稲田大学 大学院 環境・エネルギー研究科 科長 教授
実行委員	槌屋 茂康 株式会社イレブン 代表取締役社長
実行委員	土肥 大介 株式会社柴田書店 代表取締役社長
実行委員	三宅 康史 昭和大学 医学部准教授
実行委員	宮島 秀司 映画プロデューサー、文化学園大学・大学院 特任教授
実行委員	森上 淑美 一般社団法人日本介護支援専門員協会 副会長
実行委員	山川 修治 日本大学 文理学部地球システム学科教授
実行委員	山根 正慎 環境省水・大気環境局大気生活環境室室長補佐
実行委員	渡部 厚一 筑波大学大学院 人間総合科学研究科スポーツ医学専攻講師 (実行委員は五十音順)

環境省「クールサマー2012」推進チームについて

平成24年5月17日（木）
大臣官房政策評価広報課

1. 「クールサマー2012」推進チームの設置について

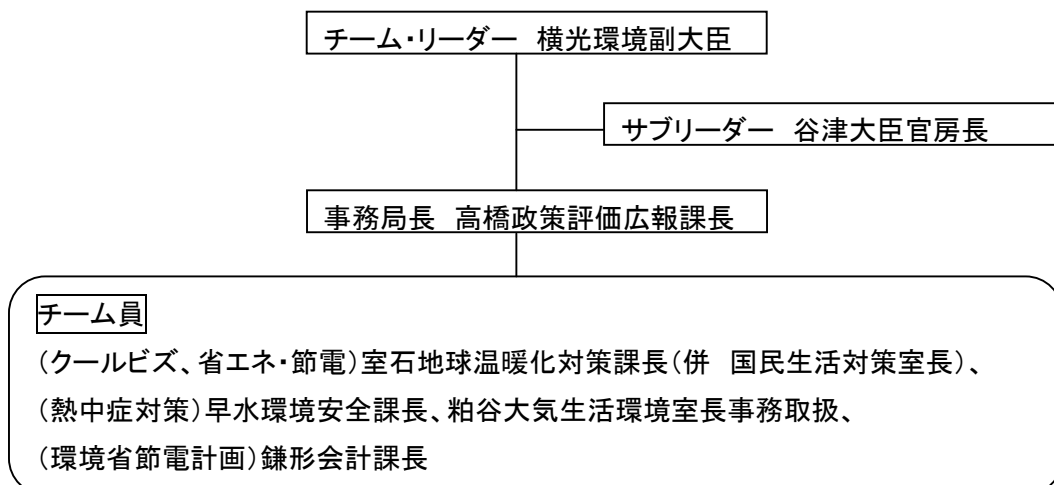
我が国の暑い夏をみんなが快適、エコかつ健康に過ごせるよう、環境省では、①クールビズの推進に加え、②省エネ・節電、③熱中症対策など様々な取組を進めてきた。特に今夏は、電力不足が懸念される地域もあり、国民各階各層の一層の取組が求められている。しかし、正しい知識と行動によらない、無理のある取組は、CO₂排出量を増大させたり、熱中症等の被害を招く恐れもある。

そこで、環境省は、各省や民間等との連携の下、「クールサマー2012」と題して、一人ひとりがクールビズや節電・省エネ活動を無理なく進められる効果的な方法をわかりやすい形で提供していくことを目指すこととし、そのための推進チームを設置する。

2. 実施期間

平成24年度夏期（5月～10月）

3. 構成



4. 具体的内容 (スケジュールについては別紙参照)

- (1) ニーズに応じて効果的に取組を呼びかける
 - 電力不足が懸念される、関西電力管内をはじめとする 60Hz 地域に重点を置きつつ、「スーパークールビズ」の普及事業や、CO2 削減・節電ポテンシャル診断を積極的に進める。
 - 「スーパークールビズ」では、家庭や地域ぐるみで行う省エネ・節電活動の形を模索する。(COOL SHARE の展開)
 - 天気予報の予想気温よりも正確に熱中症のリスクを判断できる「暑さ指数」の情報を積極的に提供する。(報道・気象予報士等の理解促進)
 - 成人に比べ熱中症のリスクが高い高齢者や小児（特に幼児）の身近な者が正しい知識と行動を身につけられることを念頭に置きつつ、マニュアル等の作成・配付、自治体や教育機関への呼びかけを行う。

- (2) 昨夏の成果を踏まえつつ、新たな取組の導入や既存の取組の拡充を図る
 - クールビズからスーパークールビズへ(28℃の徹底、軽装の励行を強化、ワークスタイルの変革、その他新たなアイデアを採用していく。)
 - 昨年度の試行的取組を踏まえた家庭エコ診断事業を本格化する。事業者向けの削減ポテンシャル診断・対策提案事業を推進する。オフセット・クレジット (J-VER) 創出を促進する。(よりきめ細かい対策により、更なる省エネ・節電が期待される。)
 - 自治体担当者や民生委員等を対象に熱中症対策の講習会を開催することで、熱中症のリスクが高い高齢者や小児（特に幼児）の身近に熱中症対策の指導者を養成する。

- (3) これらの取組を「クールサマー2012」として一元化して提供するほか、様々な主体が先進的な取組や提案を共有することを促す。(環境省ウェブサイトの活用等)

- (4) 各省・民間（経済団体・労働組合等を含む）・自治体・NPO 等、様々なステークホルダーと連携して「クールサマー2012」を積極的に推進する。(関係省庁連絡会議のハイレベル化)

以上

環境省「クールサマー2012」スケジュール

平成24年5月17日現在

	5月	6月	7月	8月以降
推進チーム	5/17:発足			
クールビズ	5/1-10/31:クールビズ 6/1-9/30:スーパークールビズ 6/1:スーパークールビズ キックオフイベント			
省エネ・節電	家庭エコ診断 CO2削減・節電ポテンシャル診断 (事業者向け) オフセット・クレジット(J-VER)創出支援			
熱中症対策	5/28-:自治体等向け講習会、マニュアル配付等 6/1-9/30:暑さ指数の提供 6/1-9/30:熱中症声かけプロジェクト 関係省庁連絡会議 大丸有打ち水プロジェクト(都内)			

ムリなく、ムダなく、ココチよく。 節電の夏、実施中。

<5つのアイデア>

その1

室温28℃で快適な
生活のススメ。

その2

みんな集合！
クールビズでクールシェア！

その3

エコ診断でお得な発見！
あなたに合った省エネ術。

その4

暑い日は、こまめな
水分補給を忘れずに。

その5

気をつけて、熱中症！
声かけ合うのも絆の一つ。

環境省「クールサマー2012」

クールビズ

地球環境局 地球温暖化対策課
国民生活対策室
／ TEL:03-5521-8341

省エネ・節電

地球環境局 地球温暖化対策課
／ TEL:03-5521-8249

熱中症対策

環境保健部 環境安全課
／ TEL:03-5521-8261
水・大気環境局 大気生活環境室
／ TEL:03-5521-8300